

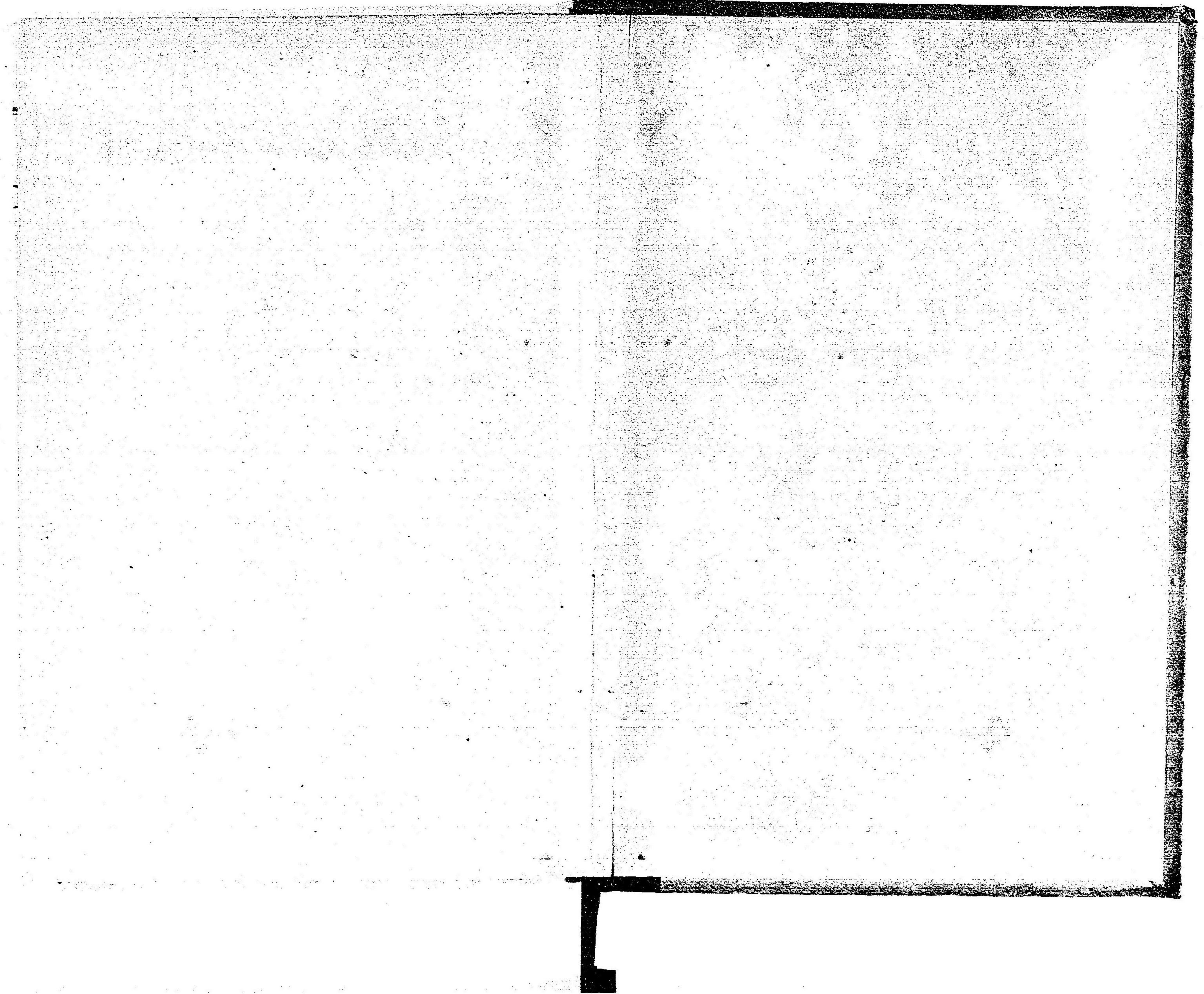
片岡義助註解

刑法附則註解

全

京都

竹岡書房藏



片岡義助註解

刑罰附則註解

全

京都

竹岡書房藏

東 書 齋

正 世 公 解 意 二 便 二 政 府 之 仁 惠 之 所 知 知 事 事 希 望 二 次

依 前 稿 一 併 一 層 之 愛 顧 ヲ 望 望 五 年 四 月

編 者 識

緒 言

我政府ハ曩ニ刑法治罪法ヲ人民社會ニ頒布セラレ寛典優渥ヲ施サル  
ル哉往々條例ノ簡短アリ或ハ其意味ノ解ニ困難スル者十二シテ七八  
ナルヲ以テ社會一般ニ普及セズ及テ其意ニ悖ル處ナキ事萬々一是レ  
無キヲ計ラレズ下欲シ刑法註解ヲ去歲編纂シ世ニ公ニセシ所也然ル

ニ政府ハ民情ノ如何ヲ酌シ徹頭徹尾其適當ヲ慮リ數條ヲ補シ或ハ改

ニ公布セラレシ者ヲ集メ其條々ヲ附録トシ前ノ註解ニ次

ニ便ニシ政府ノ仁惠ノアル所ヲ知ラシメン事ヲ希望ス

依テ猶一層ノ愛顧ヲ望レ玉ヘ

五年四月

編者識

一

刑法附則註解目錄

第一章 主刑執行

自第一條  
至第七條

第二章 監視

自第二十一條  
至第三十七條

第三章 假出獄及ヒ特別監視

自第三十八條  
至第四十七條

第四章 刑事裁判費用

自第四十八條  
至第五十三條

第五章 賠償處分

自第五十四條  
至第六十三條

刑法追告之部

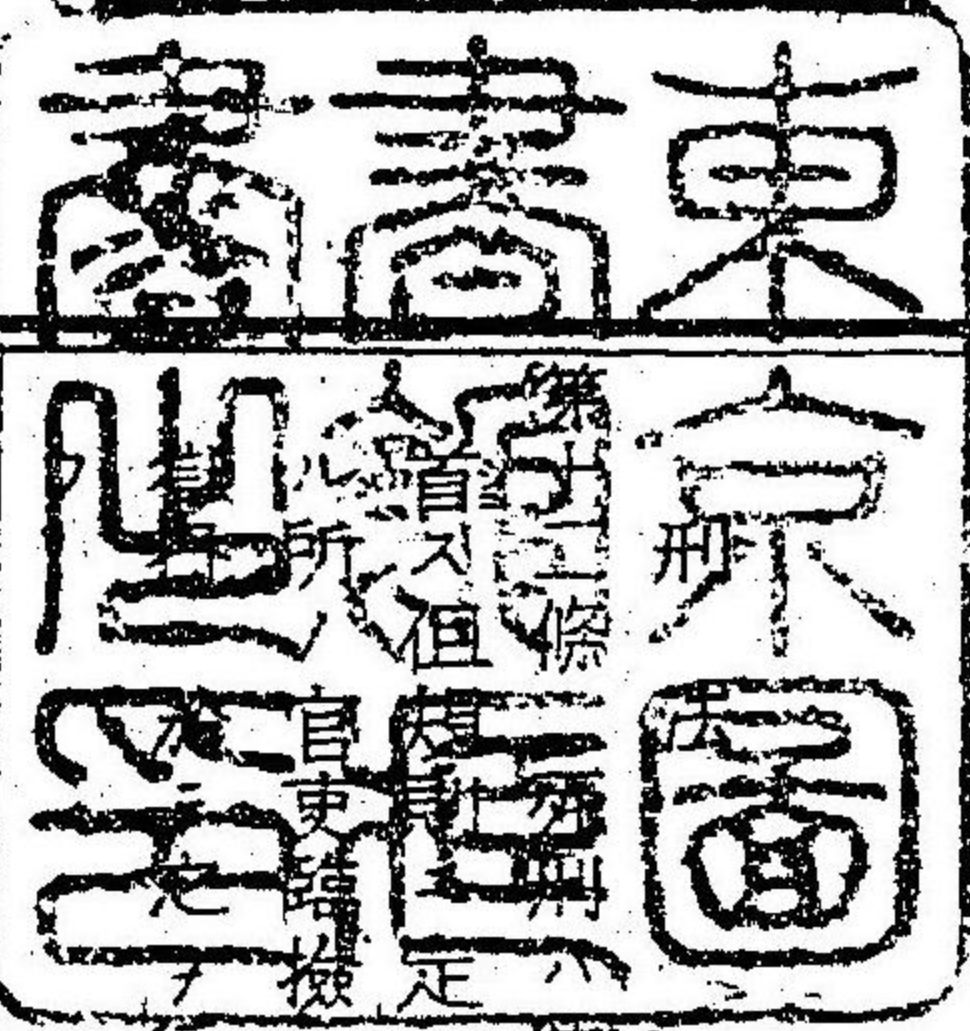
太政官第七十二號布告

自第一條  
至第七條

太政官第八十一號布告

自第一條  
至第十三條

刑法附則註解目錄終



刑法附則註解

刑法附則註解

片岡義助註解

第一章 主刑執行

刑ニ主刑附加刑ノ二大別アリ主刑ハ死罪以下拘留科  
料ニ至ル迄直チニ犯人ノ身体ニ及フ刑ヲ云フ附加刑  
ハ剝奪公権以下罰金沒收ニ至リ犯人ノ財産ニ及フ刑  
ヲ云フ本章ハ主刑執行ノ規則ナリ執行トハ裁判確定  
シタル後チ其裁判宣告ノ明文ニ因テ其刑ヲ執行行フ  
ヲ云フ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記  
及ヒ獄司刑場ニ立チ會獄司ヨリ四人ニ死刑執行  
ス可キトテ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セ  
シム但其期限ハ午前十時前トス

第十三條 死刑ハ司法  
法脚ノ命令アルニ  
非サレハ之ヲ行フ  
コトヲ得ス

治罪法

第四百六十條 死刑  
ノ言渡確定シタル  
時ハ檢察官ヨリ速  
ニ訴訟書類ヲ司法  
脚ニ差出ス可シ  
司法脚ヨリ死刑ヲ  
執行ス可キ命令ア  
リタル時ハ三日内  
ニ其執行ヲ爲ス可  
シ

第四百六十二條 刑

ノ執行ハ原裁判所  
ノ檢察官又ハ大審

○死刑トハ其首ヲ絞ル罪ナリ之ヲ執行スルハ監獄場内  
ニ於テ執行ス檢察官トハ檢察長檢察官及ヒ檢事補ヲ云フ獄司  
トハ監獄長ヲ云フ既ニ死刑ノ言渡確定シタルハ檢察  
官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法脚ニ差出シ司法脚ヨリ死刑  
執行ス可キ命令アリタル時ハ三日内ニ行フモノナリ而  
シテ其執行ノ時官吏立會ヲ爲スモノハ專バ獄丁ニ任セ  
或ハ殘忍ノ行ヒ有テシテ之ヲ防グ爲ナリ其執行ノ時限ヲ  
午前十時前トスル者ハ凡ソ世間靜謐ナルハ多クハ午前  
十時前ニシテ縱ヒ死刑人アルモ裁判所獄舎門前ニ人民  
雜沓群集ノ憂少キ故ナリ刑法第十二條第十三條及ヒ  
治罪法第四百六十條第四百六十二條第一項參照

第二條

死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行  
ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ許サズ但立會官

院ヨリ命ヲ受ケタ  
ル裁判所ノ檢察官  
ノ指揮ニ因リ之ヲ  
爲ス可シ

吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

○刑場ノ警戒ヲ嚴ニスル所以ハ從前ノ如ク公衆ノ縱覽  
ヲ防ギ獄内ニ於テ執行スルモノニハ自カラ刑場ノ警戒  
ヲ嚴ニセザル可カラズ又國事犯内乱ニ關スル犯罪或ハ  
兇徒積集ノ犯罪ノ如キ其死刑ニ處セラルハ固ヨリ多  
ク主魁者ニアリ故ニ其殘黨主魁者ヲ奪フ等ノ一無キ爲  
メニ豫防セシモノナリ其執行ニ關スル者トハ前條ニ掲  
ゲタル檢察官書記獄司獄丁等ヲ云フ又立會官吏ノ許可  
ヲ得タル者トハ犯人ノ親族其臨終ヲ認メント欲シ或ハ  
眞福ヲ祈ル説教ノ僧侶ノ如キ者ヲ云フ

第三條

死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ  
作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ  
裁判所ノ檢事局ニ納ムベシ

治罪法

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス

○本條ハ死刑執行中ハ刑場ノ門戸ヲ嚴ニ看護セシメ絞首シタル遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時間ヲ過キサレハ埋葬或ハ下付スルヲ得ザルモノトス死刑ノ執行恙ガ無ク畢リタラ明証スル爲メニ其立會タル裁判所ノ檢察官及ヒ書記獄司等連名捺印シテ其裁判所ノ檢事局ニ通報スルヲ云フ治罪法第四百六十三條參看

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭 ○一月三日

孝明天皇祭 ○一月三十日

紀元節 ○二月十一日

春季皇靈祭 ○春分ノ日 明治十五年ハ三月二十一日

仁孝天皇祭 ○二月廿一日

神武天皇祭 ○四月三日

六月大祓	○六月三十日
秋季皇靈祭	○秋分ノ日 <small>明治十五年ハ九月二十三日</small>
神宮神嘗祭	○十月十七日
天長節	○十一月三日
後桃園天皇祭	○十二月六日
新嘗祭	○十一月廿三日
光格天皇祭	○十二月十二日
十二月大祓	○十二月卅一日

○本條ニ記掲シタル祭日ハ大祀令節國祭ノ日ニテ人民上下擧テ慶賀ヲ爲ス日ナリ故ニ死刑ヲ執行シテ一家ノ悲哀痛悼ヲ爲サシムルニ忍ビザルニヨリ當日ハ死刑ヲ行フヲ禁止シタルナリ刑法第十四條參看

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル

刑法

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ  
懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シ其執行  
ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受  
ケ決行ス可シ

刑法  
第十五條 死刑ノ宣  
告ヲ受ケタル婦女  
懐胎ナル時ハ其執  
行ヲ停メ分屍後一  
百日ヲ經ルニ非サ  
レハ刑ヲ行ハス

○死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女若シ懐胎ナリト陳述スル  
凡病氣ニ由テ腹部ノ膨脹スル者無キニ非ズ故ニ醫師穩  
婆ヲ之ヲ検査セシメ果シテ相違ナキ旨明証シタ  
ル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シ其執行ヲ停メ産後一  
百日ヲ待テ更ニ司法卿ノ指圖ヲ受ケ決行ス刑法第十五  
條參看

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬  
故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スル  
ヲ得

刑法  
第十六條 死刑ノ遺  
骸ハ親屬故旧請フ  
者アラハ之ヲ下付  
ス但式ヲ用ヒテ葬  
ルヲ許サズ

○死刑ニ處シタル遺骸ト雖凡苟クモ之ヲ棄ルノ理ナシ  
故ニ行政官ニテ埋葬ス可キ當然ナルヲ以テ其地方ニ預  
メ一定ノ場所ヲ設ケザレバ不都合ヲ生ズル有リ且ツ之  
ヲ衛生上ヨリ視レバ人家ヲ隔ツル所ニ埋葬セザレバ自  
然人ノ健康ノ害ヲ生スルヲ免レザレバナリ親屬故旧  
ニ下付セラル、凡式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サズルナリ刑  
法第十六條參看

第七條 死刑ノ宣告ヲ受タル者執行ニ至ルマデ何時  
ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スル  
ヲ得

○死刑ノ言渡シヲ受ケ絞首ニ處セラル、マデニソノ親  
屬故舊ニ接見スルヲ許スハ本犯人死跡相續家政其他死  
後祭祀ニ關スル等百般ノ遺言等ヲ囑託スルヲ得且ツ



一家ノ紛争ヲ防グニ足り亦情理ニ適フ法方ト云フ可シ

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ属籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪状刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

○属ハ華士族平民ヲ云フ籍ハ本籍ナリ凡ソ刑ハ一人ヲ刑ノ万人ヲ懲戒ス可キ目的ニ外ナラズ故ニ刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前及ヒ犯罪ノ地ニ在テハ終始其犯罪ノ景場ヲ知ル者多シ又犯人住居ノ地ニ在テハ犯人ヲ知ル者多キモノナレバ榜示ヲ觀テ人民自然ニ感觸ヲ發シ戒

刑法

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分ツス嶋地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下トス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ嶋地ニ發遣セ

ス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其体力相當ノ定役ニ服ス

心ヲ生スルヲ欲シテナリ

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

○徒刑又流刑ノ言渡ヲ受ケシモノハ何レモ重罪ナレバ逃走ノ憂ヒ無キ爲メ内地ニ置カズ嶋地ニ發遣ス而ノ其嶋地場所ハ行政長官乃チ内務卿之ヲ撰定ス可シ故ニ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ得テ護送スルナリ刑

第十條 徒刑ノ囚ハ嶋地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

○徒刑ハ普通犯ノ刑ニシテ服役ノ法アリ獄外ノ役トハ獄舍外ノ地ニテ荒蕪ヲ開墾シ鑛業ヲ役トシ或ハ港灣ヲ

刑罰附則

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下トス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分ク島嶼地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セシム

開浚スル如キ難事ノ役ニ服スルヲ云フ而ノ服役ノ種類ハ其發遣所ノ模様ニ因テ別ニ撰定セラル可シ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

○流刑ハ國事犯ノ刑ニシテ服役ノ法ナシ然レモ日月ヲ開過入可カラズ且ツ身体ヲ勞スルハ健全ヲ得自然ニ悔悟心ヲ生スル有ラン故ニ犯人ノ請求ヲ許可シテ工業ヲ爲サシノ其工錢十分ノ七ヲ本人ニ給與ス而ノ工業ニ有形無形アリ耕作職工等ハ有形ニシテ寫字者ノ如キハ無形業ナリ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

刑法第二十一條ニヨリ無期流刑ノ囚五年ヲ經過シ有

第二十一條 無期流

刑法

刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ嶼地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免ゼラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可キ得但其路費ハ自カラ

之ヲ辨ス可シ

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ檢改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ許ス可キ得

○徒刑ノ囚獄則ヲ遵守シ檢改ノ狀アル時無期徒刑ノ囚ハ十五年有期徒刑ハ刑期四分ノ三ヲ經過スル時ハ行政ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ許サル可キ又流刑ノ囚ハ前條ノ如ク幽閉ヲ免サレタル場合ニ當リ父母ノ侍養ヲ要スルカ婦或ハ兄弟姊妹等ヲ招キ同居センコトヲ欲スル者

刑法附則

刑法附則詳解

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同

流刑ノ囚ハ第二十二條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サシムルト雖モ仍ホ嶋地ニ居セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サシタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾キヲ免スルコトヲ得但本刑期限內特別ニ定メタル監視ニ付ス

ハ之ヲ許入然レモ假出獄及ヒ幽閉ヲ免ゼラル、モ政府ノ恩典ニシテ犯人ノ求ムルニ權利ナシ故ニ路費ハ自ラ支辯スル當然ナリ刑法第二十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條參看

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得ザル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

○流刑ノ囚幽閉ヲ免ゼラレ島地ニ住居スルヲ得ルト雖モ獄司ノ監督ヲ免ル能ハズ故ニ監獄近傍ノ地ヲ限り居住セシム事故トハ自己作業ノ都合親族同居ノ多寡或ハ疾病等ニテ地ヲ移サバルヲ得サル時ハ獄司ニ乞フテ其限外ニ出ルヲ得ル

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ゼラレタル者再ビ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限內ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

○流刑ノ囚幽閉ヲ免ゼラレタル者再ビ他罪ヲ犯シタル時ハ其定役ニ服スルト服セザル刑トニ由テ其執行ノ前後ヲ定メ假令流刑期限內ト雖モ之ニ拘ハラズ直チニ嶋地ニ於テ其再犯ノ刑ヲ執行ス

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役

○第十條ト同義ニテ懲役及ヒ重禁錮ハ獄內ニ於テ役クニ服セシムルノミナラズ獄外ノ役ヲ取ラシムルコトアリ然レモ又寬嚴ノ別アルノミ刑法第二十二條第二十四條參看

刑法附則

ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ

禁錮場ニ留置シ重

禁錮ハ定役ニ服シ

輕禁錮ハ定役ニ服

セズ

禁錮ハ重輕ヲ分テ

ス十一日以上五年

以下ト爲シ仍ホ各

本條ニ於テ其長短

ヲ區別ス

刑法

第二十三條 禁獄ハ

内地ノ獄ニ入レ定

役ニ服セス重禁獄

ハ九年以上十一年

年以下輕禁獄ハ六

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ

爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

○第十一條ト同一ノ主義ニシテ禁獄及輕禁錮ハ俱ニ定役

無シト雖モ犯人自ラ好シテ工業ヲ爲サント請フ者ハ亦

之ヲ許ス可シ刑法第二十三條第二十四條參看

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服ス

ル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

○刑法第二十五條ニ依リ工錢ヲ給與セサル意ヲ了解セ

バ本條モ亦自カラ明カナリ乃チ服役限内ニ於テ更ニ罪

ヲ犯シ定役アル刑ニ處セラレタル者亦其後犯ノ刑期百

日以内ナレバ工錢ヲ給與セザルヲ抑囚人百日以内

ハ其業ニ習熟セズ其得ル其失ヲ償フ能ハズ故ニ給與セ

ズ左スレバ百日ヲ過ントスルニ當リテ又刑期百日以内

年以上八年以下ト爲ス

第二十四條前ニ出ス

第二十五條 定役ニ

服スル囚人ノ工錢

ハ監獄ノ規則ニ從

ヒ其幾分ヲ獄舎ノ

費用ニ供シ其幾分

ヲ囚人ニ給與ノ限

ニ在ラズ

ニ當ル罪ヲ犯ス時ハ前犯ノ刑期内ニアリテ其業既ニ練  
熟セリ故ニ後犯百日以内ノ工錢ハ給與ス可キニ似タリ  
ト雖モ該條ノ意ハ一罪ニ係ル刑期中其再犯ノ刑期百日  
以内ハ給與セサル意ナリ

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交  
付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄規則ニ從フ

○監獄規則ハ明治十四年太政官第八十一號ヲ以テ達セラ  
ル獄舎ノ位置ニ因リ其費用ノ額自ラ異ナルヲ以テ工錢  
ヲ囚人ニ給與スル金額及ヒ領置ノ方法ヲ刑法及ヒ刑法  
附則ニ記載スルヲ甚ク難キ故ニ監獄規則ニ從ツテ定ム  
ルモノトス

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル  
前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ

一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其圓ニ滿ラザル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス  
罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但シ禁錮ノ期限ハ二年ニ過ルヲ得ス  
若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ

罰金ニ於ル亦同シ

○刑ハ其身一身ニ止ルノ原則ニシテ乃チ刑法第二十七條ニ定メラレタル如ク若シ罰金科料ノ刑ヲ受ケシ者未ク納完ニ至ラザル前ニ犯人死去シタルモハ政府已ニ其罰金科料ヲ宣告シタル上ハ民事上ニ於テ犯人ニ對シ債主ノ權ヲ有セリ故ニ其財產ニ對シ徵収スルモ不可ナル無シト雖モ犯人已ニ死スレバ其刑消滅スルヲ以テ其相續人ヨリ徵収セス

第二章 監視

○監視ハ刑法第十條第四項ニ記載セシ附加刑ノ一ニシテ主刑ニ附加スルモノヲ云フ蓋シ重罪ニ附加スル者ハ刑法第三十七條ノ如クシ輕罪ニ附加スルモノハ同三十八條ニ記載セシ分ニ張リ別ニ宣告ヲ以テ之ヲ附加スルモノトス

扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第三十七條 重罰ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等キ時

間監視ニ付ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

○監視ハ犯罪人ヲシテ再ビ罪ヲ犯ス勿ラシムン爲メニ主刑ノ濟ミタル後チ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視視察セシムル規則ナリ刑法第三十四條及ビ三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條參看

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス

第三十四條 輕罪ノ

刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒテ監視ノ期限間公權ヲ行フトテ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同ジ

第三十七條及ヒ第三十八條ハ上ニ出ス

第三十九條 死刑及ビ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ五

年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタ

可シ

○監視ニ付ス可キ者主刑ノ徒刑懲役禁獄禁錮等ノ刑期既ニ終リタル時ハ獄司之ヲ豫メ定メタル其住所ノ警察所ニ護送シ規則ノ違リ監視ヲ執行セシム期滿免除ハ刑法第五十八條以下ニ定ムル所ノ年限ヲ經過シ主刑ヲ免シ同百二十六條ノ如ク其主刑ヲ免シ只監視ノミニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可キ者トス

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

○監視ノ起算滿期トハ何月何日ヨリ起算シ何月何日其期限ノ満ルヲ云フ右ノ書類及ヒ刑名宣告ノ謄本ハ犯人

將來監護視察ニ就キ警察官ニ於テ必用ノ書類ヲ傳遞シテ以テ証ト爲ス可キナリ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過ル者ハ獄司若クハ檢察官ヨリ先最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

○犯人居住ノ地一日ニテ護送ス可カラザル遠地ニ在ルトキハ先ツ主刑ノ執行終リタル犯人ヲ最モ近キ所ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ犯人居住地ノ警察所ニ護送スルナリ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ附與シ犯人到着ノ日直キニ之ヲ其地ノ警察

第四十一條 監視ニ附セラレシル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假リニ監視ヲ免スルヲ得

第五十八條 刑ノ執行ヲ適レタル者法

刑罰則

律ニ定メタル期限ヲ経過スルニ因テ  
刑免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ  
左ノ年限ニ從テ期  
滿免除ヲ得

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒流刑ハ  
二十五年
- 三 有期徒流刑ハ  
二十年
- 四 重懲役重禁獄  
八十五年
- 五 輕懲役輕禁獄  
八十年
- 六 禁錮罰金七年
- 七 拘留科料一年

第三百二十六條 内乱

所ニ差出サシム但途中專故アリテ淹滞シタル時

ハ第三十一條ノ例ニ從テ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書  
類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

○京條ハ第二十四條ノ場合ニテ犯人ヲ受取タル警察所  
ヨリ里程ヲ計リ日數ヲ定限シ旅券ヲ付與シ犯人住居地  
ノ警察所ニ送致スル手續キナリ但書ハ第三十一條ニテ  
了解ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視

ノ期間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ  
下付ス可シ

○遵守トハ犯人ノ從ヒ守ル可キ規則ヲ云フ條件ハ讀聞  
乃チ第二十七條ニアル條件ナリ既ニ第二十三條ニ有

ノ豫備又ハ陰謀ヲ  
爲スト雖モ未ダ其  
事ヲ行ハサル前ニ  
於テ官ニ自首シタ  
ル者ハ本刑ヲ免シ  
六月以上三年以下  
ノ監視ニ付ス

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左

ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ  
表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受シ可  
シ但疾病又ハ已ムトテ得サル事故アリテ警  
察所ニ到リ不能ハサル時ハ其事由ヲ届出可  
シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會  
スルヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルトテ許サス若シ已ムトテ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

○前解ノ通り監視ハ犯人行狀ノ良善ヲ欲スル爲ニテ第一項ハ其謹慎ヲ表スルニ在リ故ニ毎月二度懈タラス所轄ノ警察所ニ到リ平常ノ所爲不行狀無キヲ表シ官吏ノ認可ヲ受ク可シ但シ疾病事故アル時ハ代人ヲ以テ其事由ヲ警察所ニ届ケ出テシム此時警察官吏臨時検査スルトテ有リ故ニ病疾事故ヲ詐ハル可カラズ

第二項人心ヲ怠惰ニ誘導スルハ酒宴遊興ニアリテ前項ノ謹慎トハ反對ノ者ナリ故ニ之ヲ許サス又人民雜沓ノ

場所ハ或ハ危險ノトテ釀成スルモ計リ難シ故ニ群集ノ場所ニ參會スルヲ禁ス

第三項及ヒ第四項ハ事故アリテ住居ヲ移轉シ又ハ他ノ地方ニ旅行スル時ハ犯人ノ行狀ヲ監護視察スル能ハス故ニ其事由ヲ具ニ届ケ出テ警察所ノ許可ヲ受ク可キ者トス

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

○家宅ハ監視ニ付セラレタル犯人ノ家宅ナリ凡ソ現行犯或ハ犯罪ノ証跡有ルニ非ザレバ叩リニ人ノ家宅ニ侵入シテ搜索スルコトハ治罪法ニ於テ之レ無キトナリ然レモ監視ノ刑ヲ受ケシモノハ其平常ノ行狀ヲ監視スル爲ニ警察官吏時トシテ其家宅ニ臨檢スルヲアル可



第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ

第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時

ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸リ來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

○第二十七條第四項ノ許可アル時ノ手續ニシテ監視ノ刑ヲ受ルモノト雖モ適用職業ノ爲ノニ他ノ地方旅行ス

ルヲ禁スル時ハ產ヲ營ム能ハザルアリ故ニ之ヲ許可スルニ當リ其里程及ヒ本人滞在ス可キ日數ヲ聞知セシ上旅券ヲ付與ス可シ且ツ其地ノ警察所ニ出テ住居身分職業年齢ヲ記載セシ証券ヲ出シ認印ヲ受ケ是レ一ツハ踪跡ヲ藏スノ患ヲ防キ一ツハ其地ノ警察官吏ノ監視ヲ受ケシムル爲ナリ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滯シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ帰着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差シ出ス可シ

○臨時天災ハ抗拒ス可カラサル災禍ニ係リ或ハ疾病等豫メ期ス可カラス固ヨリ本人意外ニ來レル者ニテ其限定日數ヲ過ル時ハ其地ノ警察所ニ事由ヲ具申シ官吏ノ

刑治

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿スル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過ザル間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

証據書ヲ受ケ歸來ノ日住居ノ地ノ警察所ニ旅券ト共ニ差出ストス

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

○懲治場トハ刑法第七十九條第八十條第八十二條ニアル可キ場所ヲ云フ凡ソ監視ニ付ス可キモノ定居ナク又親族朋友等ノ引キ取り人無ク或ハ住居アリト雖モ遠路ニシテ歸ルニ旅費無キ者ヲ放歸セシムルハ住居無キモノハ監視スルニ便ナラス又歸ル資力無キ者ハ勢ヒ再犯ニ陥ラサルヲ得ス故ニ本條ヲ設ケ懲治場ニ留置シ

ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

工業又ハ使役ヲ爲サシメ犯人ニ住居ヲ得セシメ或ハ歸者ノ旅費ヲ得セシムルヲ要トスルナリ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

○本條ハ罰金ノ言渡ヲ受ケ期限内納完スル能ハサル者禁錮ニ換ヘラレタル者半途ニシテ納完スルヲ得タル時ハ禁錮ヲ免サルト同一般ノ法ニシテ住居無ク歸着ノ資力無ク懲治場ニ留置スルハ止ムヲ得サルニ出ツルナリ故ニ若シ其監視期限内引取人ヲ得ルカ或ハ旅金ヲ與フル者等有ル時ハ歸着スルヲ得セシムルナリ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯

シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑満限ノ後前  
後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

○監視ハ附加刑ノ一ニシテ令刑期限内罪ヲ犯シ或ハ監  
視期限間再ヒ罪ヲ犯ストモ初犯再犯ノ刑ヲ執行ス故ニ  
罪ノ輕重ニヨリ執行ニ前後有リト雖ドモ附加刑ニ至テ  
ハ一ナルヲ以テ前監視ノ期限ト後ノ監視期限トヲ合セ  
テ其期限間監視ヲ執行スルヲ云

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス  
可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可  
シ

○罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完スル能ハザレ  
バ刑法第二十七條ニヨリ一圓ヲ一日ニ折算シ禁錮ニ處  
セラルル然ル場合ニハ其禁錮ノ日數ハ監視ノ日數ニ算入

スルト猶ホ懲治場ニ在ル日數ヲ監視ノ期限ニ算入スル  
ト同意ナリ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ  
悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内  
務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ  
得

○宣告ヲ受ケス監視ニ付セラレタル者ト宣告ヲ受ケ監  
視ニ付セラレタル者トヲ問ハス能ク其規則ヲ遵守シ其  
行狀ヲ改悛セシトヲ認ル上ハ警察官ヨリ其事實ヲ具申  
シ行政長官ノ内務及ヒ司法ノ兩卿ノ指揮ヲ受ケ假リニ  
監視ヲ免スルヲ得此ノ場合ニ於テハ第二十七條ノ條  
件ハ遵守スルニ及ハザ者トス刑法第四十一條參看

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉

刑法

第二十七條及ヒ四十  
一條ハ前ニ出セリ

移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

○假ニ監視ヲ免セラレシ者モ轉移住居ハ監視同様ナリ  
刑法第五十三條參看

第三章 假出獄及ヒ特別監視

○重罪ノ刑ニ處セラレタル者刑法第五十三條ノ如ク  
特別監視ヲ改換ノ狀アル時ハ流刑ノ外ハ其刑期若干  
ヲ經過シタル後又無期徒刑ハ十五年ヲ經過スル後ハ假  
ニ出獄ヲ許サル、一ヤリ又特別監視トハ假出獄ヲ許サレ  
シ者ニ限リテ通常ヨリ一層嚴格ナル監視ヲ云フナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨ

リ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假  
ニ出獄ヲ許サレントテ内務司法兩卿ニ上申シテ

刑法  
第五十三條 重罪輕  
罪ノ刑ニ處セラレ  
タル者獄則ヲ遵守  
シ悔改ノ狀アル時  
ハ其刑期四分ノ三  
ヲ經過スルノ後行  
政ノ處分ヲ以テ假  
ニ出獄ヲ許ス可キ  
得  
無期徒刑ノ四ハ十  
五年ヲ經過スルノ

許可ヲ受ク可シ

○本條ハ有期無期ノ刑ヲ問ハス犯人能ク獄則ヲ守リ悔  
改ノ狀見ハル、時ハ獄司其犯人ノ刑名行狀及ヒ入獄年  
月等具サニ記載シ假ニ出獄ヲ許サレントテ内務司法ノ  
兩卿ニ上申シ其指揮ヲ受ク可シ是レ一般囚人ヲメ其善  
行ヲ爲サントテ獎勵スルノ良法ナリ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證

票ヲ犯人ニ下付ス可シ

○證票ハ第四十條ニ記載スルモノヲ云フ犯人假出獄ヲ  
許サレタリト雖モ未タ刑期限內ノ者タルヲ証スル爲メ  
獄司ヨリ之ヲ下付ス

第四十條 假出獄證票ニ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名及ヒ處刑ノ年

後同シ  
流刑ノ四ハ第二十  
一條ニ照シ幽閉ヲ  
免スルノ外假出獄  
ノ例ヲ用ヒス

月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ

出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

○殘期トハ譬ヘハ輕懲役八年ナレハ六年服役シテ殘リ

二年ハ殘期ナリ○假出獄ハ法律ノ恩惠ニ出ル者ニメ其

恩惠内ニ罪ヲ犯スハ是レ自カラ刑ヲ招ク者ナリ故ニ直

チニ假出獄ヲ停止シ其出獄中ノ日數ヲ算入セス更ニ刑

期ヲ執行セシムルヲ云フ特別監視ハ第四十一條以下第

四十五條ニ至ル方法ノモノヲ云フ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中

自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ

刑法

第五十五條 假出獄

ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

○重罪ノ刑ニ處セラレシ者主刑終ラサル内ハ自ラ財産

ヲ治ムルヲ禁セラルト雖モ犯人自宅ニ在テ生産ノ道

無キ時ハ貧困ニ逼リ再犯ノ憂ヒナキヲ免レヌ故ニ自カ

ラ財ヲ治メ職業ヲ爲ント欲スル者ハ警察所ニ申請シテ

其許可ヲ受ク可キ者トス刑法第五十五條參看

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ

定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ

犯人ヲメ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視

ヲ執行セシム可シ

○證票謄本ハ第四十條證票ハ寫ヲ云フ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第

二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三

第五十六條 假出獄  
中更ニ重罪輕罪ヲ  
犯シタル者ハ直ニ出  
獄中ノ日數ハ刑所  
ニ算入スルヲ得  
ス

十一條ノ例ヲ適用ス

○第二十二條以下ト其手續相同シ刑法第五十六條參看

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限

間左條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナル

ヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク

可シ

但疾病又ハ已ト得サル事故アリテ警察所

ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ會合

スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察

所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉

移スルヲ許サズ

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サ

ズ

○特別監視ハ主刑ノホク終ラサル者ヲ待ツ所以ニシ

テ通常監視ト異ナリテ必ス一週間ゴトニ警察所ニ至リ

其謹慎ヲ表ス可シ又他府縣ニ轉移シ或ハ往復一日程ヲ

過ル所ニ旅行スルヲ許サス一層嚴格ニシタルナリ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ

因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

○第二十八條ト同シ

第四十六條 假出獄ノ許サレタル者刑期滿限ノ日

ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨ

リ證票ヲ出シタル獄司ニ遞送ス可シ

主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

○刑法満期ノ日ニ至レバ假出獄證票ヲ住居地ノ警察所ニ送納ス可シ又主刑満期ノ後附加ノ監視ニ付ス可キ犯人ナレハ更ニ第二章通常ノ監視ニ付セラル

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

○刑事裁判費用ハ第四十八條ヨリ第五十三條マデノ費用ヲ云フ抑モ此ノ費用ハ犯罪ヨリ生ジシ者ナレハ民事上ニ於テ拂フ可キモノニシテ刑法上ノ罰ニ非ス然レモ刑事裁判官ノ便宜ニ依リ處分スルヲ以テ此章ニ掲載セシナリ

刑法

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用

贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

○豫審公判トハ豫審刑事犯罪ノ取調ヲ爲シ其裁判官裁判ヲ爲スヲ云フ其裁判ノ爲メニ呼出シタル証人ニ給與ス可キ旅費日當及ヒ止宿料等ヲ刑事裁判費用ト云此ノ費用ハ犯罪人辨償ス可キ者ナリ左スレモ被害人或ハ檢事ニ於テ擔當スルトモアリ刑法第四十五條第四十七條第四十八條及ヒ治罪法第二百條第四百六十二條第二項參看

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ日當五十錢

判スルヲ得若シ  
贓物犯人ノ手ニア  
ル時ハ請求ニシテ  
難ク直チニ之ヲ被  
害者ニ還附ス  
治罪法

第二百條 鑑定人及  
ヒ通事ニハ旅費給  
料其他相當ノ費用  
ヲ給與ス可シ

第四百六十二條第二  
項 破壞又ハ廢棄  
ス可キ没収物品ハ  
檢察官之ヲ處分ス  
可シ

治罪法  
第九十條 證人ハ  
即時出廷ニ付テノ

旅費一里拾錢

止宿料貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及  
ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其  
三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

○本條ハ注釋ヲ用ヒス自ラ分明ナリ

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請  
求アルニ非サレハ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法  
第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當  
ノ外若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

○証人ハ固其犯罪ノ証ヲ陳述スル者ニテ醫師鑑定人ト  
違ヒ旅費日當等ヲ要請スルニ非サレハ給與セス治罪法

旅費日當ヲ要ムル  
ト得若シ日稼ヲ  
以テ生業トスル者

ナル時ハ旅費日當  
ノ外日稼高二等シ  
キ償金ヲ要ムルヲ  
得

本條ノ場合ニ於テ  
ハ檢察判事其金額  
ヲ定メ之ヲ言渡ス  
可シ

第九十條ニ有ル如キ場合ナレハ日稼ニ等シキ若干ノ  
償金ヲ求ムルヲ得可シ

第五十二條 解剖舍審等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ  
要スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可  
シ

○本條ハ前ノ二條ト同意ナリ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メ  
サル前ニ於犯罪人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ  
徴収ス

○裁判費用ハ民事上ノ義務ニシテ財産ニ對スルモノナ  
リ犯人費用償納ノ宣告ヲ受ケ未タ納メサル前ニ於テ死  
去スル時ハ其罪ハ消滅スト雖モ裁判費用ハ其相續人ヨ  
リ取立ツ可キモノトス



第五章 賠償處分

○本章ハ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ爲サシムルニテ亦  
民事上ノ手續ナリ賠償ハ盜物ヲ徵収補償セシムルニ本  
章ヲ刑事上ニ掲ケシモノハ時宜ニヨリテ刑事裁判官ノ  
取扱ヲ以テナリ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害  
者ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル  
時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

○贓物ハ盜ニ物其外都テ不正ニ属スル品物ヲ云フ譬ヘ  
ハ盜物未タ他ニ轉ニス犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害  
者ニ還付ス然レモ既ニ他ニ轉シタル時ハ直チニ被害者  
ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リニ非ケレハ還給セ  
付ノ處分ニ及ハス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商  
ニヨリ買取シタル物品ハ其公商若シハ被害者ヨ  
リ買取者ニ原價ヲ償ハサレバ直チニ還給セシムル  
トヲ得ル若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品  
ハ其還給ヲ拒ムトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對  
シ賠償ヲ求ムルトヲ得

○公商ハ公ケノ商人譬ヘハ贓物他人ノ手ニ現在シ被害  
者請求スト雖モ或ハ公商ノ古道具屋ヨリ買得セシ品物  
ナレハ盜物ニ係ルト雖モ其買得者ヨリ直チニ引キ揚ル  
トヲ得ス公商人被害者ヨリ其買取シタル原價ヲ償ハサ  
レハ其品ヲ還給スルヲ得サルモノトス若シ古道具屋ニ  
テ兵服及物ヲ買得シ又紙屋ニテ古道具ヲ買ヒ取リシ類  
ハ是レ公商ニ由ラサル者ニシテ還給ヲ命セラル、モ之

コ拒ムノ権無シ其不正品タルヲ以テナリ但賣主ニ對シ  
ニ原價ノ償金ヲ求ムルヲ得ルユヘナリ

**第五十六條** 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取リタル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

○贓物ヲ受ケトハ盜ミ物ヲ賣ヒ受ケント典物ハ質物トシテ凡ソ知レト知ラサルヲ論ニス贓物ヲ賣ヒ受ケ或ハ質物ニ受取リタル者其物品現在スル時ハ還給ヲ拒ムトヲ得ス然レモ典物ニ受取リタル者ハ典主則チ犯人或仲人等ニ對シ償金ヲ求ムルヲ得ルナリ

**第五十七條** 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス

可シ

○交換トハ品ト品ト交易スルヲ云若シ品ヲ交易シテ贓物ヲ得テ其贓物現在スル時ハ第五十五條ト同一ニ處分ニ及ブテ云フ

**第五十八條** 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可ラサル時又ハ其所在ノ知レサ時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

○犯人既ニ贓物遣ヒ盡シ或ハ模様ヲ易ヘ原質ヲ變シテ識リ別ル丁能ハザラシメ又ハ其品ヲ他ニ轉シ其在ル所ヲ知ラサル場ニ至テハ犯人又ハ損害償ヲ擔當ス可キ者ニ對シテ賠償ヲ請求スルヲ得ルモノトス

**第五十九條** 人名譽若クハ殺傷ニ關スル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求

刑法  
第四十六條 犯人刑  
ニ處セラレ又ハ放

免セラルト雖モ  
被害者ノ請求ニ對  
シ贓物ノ還給損害  
ノ賠償ヲ免ル  
ヲ得ス

第四十七條第四十八  
條ハ前ニ出セリ

治罪法

第二條 私訴ハ犯罪  
ニ因リ生シタル損  
害ノ賠償贖物ノ返  
還ヲ目的トスル者  
ニシテ民法ニ從ヒ

被害者ニ屬ス  
第八條 被告人免許  
又無罪ノ言渡シヲ  
受ケタリト雖モ民  
法ニ從ヒ被害者ヨ

リ賠償返還ヲ要ム  
ルノ妨礙ト爲ル  
ナカル可シ

治罪法  
第四條 私訴ハ金額  
ノ多寡ニ 拘ハラ  
ス公訴ニ附帶シテ  
刑事裁判所ニ之ヲ  
爲ス  
ニ於テ其裁判所ニ  
私訴ヲ爲ス  
ナ  
リニ在ラス

又私訴ハ別ニ民事  
裁判所ニ之ヲ爲ス  
ヲ得

第五條 公訴私訴ノ  
裁判ハ管轄裁判所

スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

○人ヲ誹謗シ其名譽ヲ汚シ害ヒ又人ヲ殺シ傷ケ或ハ犯  
罪ノ爲メ現ニ目ニ觸レル損害ヲ生シタルハ賠償ヲ請求  
スルヲ得ルナリ然レモ失火ノ如キ之ヲ賠償スル時ハ  
若シ煩焼多キニ至ラハ犯人ノカ爲ノ巨多ノ賠償ヲ負ヒ  
終ニ辨償スルノ期無シ是ヲ以テ此限リニアラス刑法第  
四十六條第四十七條第四十八條治罪法第二條第八條參  
看

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判  
スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已  
ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求  
スルヲ得ス

○本條ヲ刑事上ニ舉ケタル者ハ犯人ヲ刑事ニテ裁判ス

本條ヲ刑事上ニ舉ケタル者ハ犯人ヲ刑事ニテ裁判ス  
ルヲ以テナリ然レモ其審判既ニ済ミシ上ハ民事裁判所  
ニ訴フルニ非サレハ請求スルヲ得サルハナリ刑法第  
四十八條治罪法第四條第五條第七條第二百二十四條參  
看

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ  
賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ  
爲ス  
得其民事裁判所ニスル者ハ民事訴訟ノ  
程式ニ從フ可シ

民事ノ手續ヲ以テ民事裁判所ニ請求スル者ハ訴答文  
例及ヒ訴訟用ノ野紙ヲ以テ其程式ニ從フ可シト爲ス

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル  
時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第七條 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニアラザレバ願下ケテ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲ス可キ得  
刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告ノ承諾ヲ得テ願下ケテ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲ス可キ得  
第二百二十四條 豫

本條亦民事ノ持チマヘナリ相續人ハ死者ノ權利義務ヲ受ケ財産ヲ相續スル者故ニ本犯人死亡スト雖モ賠償ノ義務ハ消滅スル事無ク是ヲ以テ其相續スル者ヨリ賠償ス可キ者トス

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代ノ處身ヲ請求スルヲ得

本條亦第六十條ト同義ニテ刑事裁判ニ於テ贓物ノ還給賠償ノ命ヲ受ケ其命ヲ奉シ還給賠償セザルモノ刑事審判已ニ終リタル後ナレハ被害者ニ於テハ之ヲ刑事ニ訴フルヲ得ス更ニ之ヲ民事裁判所ニ訴ヘ犯人身代限ヲ以テ賠償ノ處分ヲ請求スルヲ得ルモノ、是レ民事ノ身代限リハ賠償ニ充ツル能ハサル時ハ猶ホ其子孫ニ

審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタル時ハ後免ノ言渡ヲ爲ス可シ

- 一 犯罪ノ證據充分ナラサル時
- 二 被告事件罪ト爲ラサル時
- 三 確定裁判經タル時
- 四 大教アリタル時
- 五 法律ニ於テ其罪ヲ全免スル時
- 六 本條ノ場合ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ非サレハ要償ノ訴ヲ爲ス可キハズ

至ルモ請求賠償セシムルヲ得レハナリ

刑法附則註解 大尾

刑法追告

第七十二号

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ

係ル者ハ左ノ例ニ照シ處斷スベシ

第一條 凡ソ懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

總俣旧律懲役十一日以上ヲ新刑法ノ重禁錮ニ處シ懲役十日以下ヲ新法ノ拘留トス即チ第八十一号布告第一條新法比照表ノ如クナリ

第二條 凡ソ禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

從來禁獄禁錮ノ如キハ只華族士族ノ刑法ナリシ其十一日以上相當ハ新法ノ輕禁錮ニ處シ旧刑十日以下ノ禁獄禁錮ハ新律ノ拘留トスルナリ

第三條 凡ソ罰金及ヒ料料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ

五錢以上壹圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

○旧ノ律法罰金且ツ料料ハ其金額ノ二円以上ナレバ新法タル輕罪ノ罰金トシ未タ二円ニ滿タサル者則チ五錢以上一円九十五錢ナル時ハ違警罪ノ刑律ニ相當ルガ故料料トス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若ハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ビ咎メ申付ベクトアルハ總テ二円以上百円以下ノ罰金ニ處ス

○蓋シ從前ノ旧律中法ニ對照シテ處斷シ或ハ律ニ照シ處斷又ハ違令違式ニ照シ處斷スト云フト其行為ノ爲メ咎メ申シ付ク可シ杯ト云フハ全ク新法ノ二円ヨリ百円ニ至ル迄ノ罰金ヲ課ス也則チ新法ニテハ罰金ヲ二円以上トシ定メテ立テス此例ニテハ定極ヲ百円トシ其中ニ在リテ違退上下スルヲ得ルナリ假令テ云ヘハ我家ニ養ヒ畜ヒタル者ノ逃ケタハハ是レ違失物ニアラス故ニ其所有主ハ官ニ之ヲ報告シ且ツ之ヲ得シ者ヘ其費用勞カニ酬ユル金額ヲ給與シ其家畜ヲ取り戻スコトヲ得其時若

シ他人ノ財産ヲ損失セシ時ニハ律ニ照シテ處分スト云フガ如ク或ハ遺失物逸走スル畜類ヲ得テ官ニモ送還セズ物主ニモ返サザル者ニハ律ニ照シテ處分スルト云フノ類ヒコレナリ

**第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス**

○法律規則ノ禁令アリ然リト虽其刑法ト異ナル以上ハ再犯加重數罪俱發令ヲ以テ一ニ刑ニ從フ可カラス何トナレバ法律規則ト刑法トハ其成立ヲ異スルガ故相數ヘ再犯數罪ト爲サス各自別々ニ罪ヲ論スル也  
ソモ再犯加重ハ先キニ重罪ヲ犯シ其后又々罪ヲ犯ス乎將々又先キニ重罪後ニハ輕罪ナル乎又ハ先キニ違警罪后ニ同罪ノ時ノミ之ヲ用フ或ハ陸海軍裁判所ニテ判決ヲ已ニ受ケタル者ノ非常律ノ處分ナル時ニハ後ニ犯ス所ノ重罪ナル時初メテ再犯ヲ以テ論スルヲ得ル者ニ付異種ニモ他類ヲ以テ再犯ノ科三入レズ右之通りニ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論

セス加重ヲ爲サザルニ付爲メニ數罪俱發ナレバーノ重キニ從ヒ處断スルノ寛典ヲ受ル事ヲ得ス前后ノ數罪ハ各々自刑ヲ當ル也

**第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ツテ處断ス**

○ソモ刑法總則ニ云フ此刑法ニ正條ナクメ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各々其法律規則ニ從フト假令ハ法律規則ト違奉スル者アルト虽凡刑法ニ適當ノ正條アルヲ置キ其法律規則ヲ適用スルヲ許サズ

**第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス但シ始審裁判所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得**

○第一條以下罪犯ニ由リ違警罪ノ拘留科料ニ處セラル者アルトモ之ヲ輕罪裁判所ニテ裁決ス可シ何トナレバ是レ違警罪純粹ノ者ナラサレハ或ハ十日以下ノ懲役禁錮等ノ者アルヲ以テ之ヲ違警罪裁判處ニ附スハ

應當ナラザル所以ナリサレド始審裁判所ノナキ地ニテハ治安裁判所ニ  
テ之ヲ判決ス是レソノ輕罪裁判所ハ始審裁判所ニ聞クヲ以テ始審裁判  
所ノナキ地ハ即チ輕罪裁判所ノ無キニ依ル所以ナリ

○第八十一號

第一條 新舊法ヲ比照スルニハ左ノ如シ

○本條新刑法ト旧刑法即チ新律綱領改定律令トヲ並べ掲ケ其輕重ヲ量  
リ處斷スル方法ヲ示ス是レ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在  
リテ未タ判決ヲ經ザル者ハ新旧ノ法ヲ比較シ輕キニ從フテ所斷スト云  
フヲ以テノ故ナリ

○新法 明治十五年一月一日ヨリ  
施行スル所ノ刑法

○舊法 明治三年施行セラレタル新律綱領ヨリ明治六年  
發行セラレタル改定律例ニ至ルノ法律

一 死刑 新刑法ニ於テハ人ヲ殺シタル者ハ天皇皇后皇  
太子三親王皇族ノ命ヲ殺シタル者ハ殺害刑ノ死刑ニシテ  
無期徒刑ハ即チ死刑ノ輕刑ニシテ

斬 不特此等ニテハ死刑ノ輕刑ニシテ  
死罪ニシテハ死刑ノ輕刑ニシテ

絞 改定律令ニ於テハ斬ヲ  
廢シ死刑ハ絞ノモトス

二 無期徒刑 無期徒刑ハ即チ死刑ノ輕刑ニシテ  
テ島地ニ送還スルトモ少シ別ルニ  
三 有期徒刑 徒刑ノ期限アルモノニシテ十二年以上  
十五年以下ニ處テ罰之ニ處キモテ

懲役終身 内地ニ於テ無期ノ懲刑ヲ課セラル、  
モノニシテ島地ニハ發遣セラレズ

四 無期流刑 國事犯人ノ刑ニシテ島地ノ 獄ニ入レ定ニ處ス 禁獄終身 此刑ハ華士族ノ罪犯ヲ處分スル所ニシテ 禁獄ナリシカ明治七年六月懲罰令改テ	五 有期流刑 是亦國事犯人ノ刑ニシテ十二年以上十 五年以下ノ期限トス曰律之ニ違フ者ナ 懲役十年	六 重懲役 懲役十年	七 輕懲役 懲役七年	八 重禁獄 國事犯人ノ刑ナルヲ以テ只内地ノ獄ニ入レ定 後二年以上五年以下ノ期限ナリ 禁獄十年 華士族ノ罪犯ヲ處分スル所ニシテ 禁獄ナリシカ改テ禁獄トナレリ 右ニ同シ華士族ヲ罪スル刑ナリ	九 輕禁獄 是亦國事犯人ノ刑ニテ内地ノ獄ニ入レ定 後二年以上五年以下ノ期限ナリ 禁獄七年 右ニ同シ華士族ヲ罪スル刑ナリ	十 重禁錮 重禁錮以下ハ輕罪ノ刑ナリ (懲役十一年以上 五年以下)	十一 輕禁錮 國事犯人ノ刑ニシテ禁錮場ニ留置スルノミ 定後服スル以上五年以下ノ期限ナリ (禁獄錮十一年以上) 禁獄錮十一年以上 禁獄錮以下 禁獄錮以下	十二 罰金 罰金ハ二円以上罪ノ輕重ニ ヨリ高額ニ置ルモノトス (贖罪刑罰金) 贖罪刑罰金 科料二円以上 金ヲ出スルハ減少ナシ 金ヲ出スルハ減少ナシ	十三 拘留 是亦國事犯人ノ刑ニシテ拘留ノ刑ナリ (懲役十一年以上) 拘留十以上 拘留十以上	十四 科料 是亦國事犯人ノ刑ニシテ罰金ノ輕キモノト云 フテ可ナリ其額ヲ五元以上九十五元以下 (贖罪刑罰金) 贖罪刑罰金 科料二円未満
---	---	------------	------------	--	---	---	--	---	--	--

第二條 舊法ノ刑期ニ過クルト得ス若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期  
舊法ノ刑期ニ過クルト得ス若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期

二等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從  
フ

○懲役百日或ハ一年等一定ノ期限ヲ旧刑法ニ於テハ立タレトモ新刑法ニ  
ハ九年以上十一年以下ノ禁獄十二年以上十五年以下ノ徒刑アリテ其期限  
内ニハ長短或ハ伸縮等ハ裁判官其人ノ判定ニ放任シタルヲ以テ時トシ旧  
法ヲ新法期内ニ含有ス則チ旧法ニ於テ懲役百日ノ者ナレバ新法ニテハ二  
月以上四年以下ノ重禁錮ニ當ルガ如シ此ノ時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日  
以下ノ重禁錮ニ處スルノ如キ者ヲ云フ且ツ旧法ニテハ華士族ノ刑禁獄ニ  
十日ニ相當ル者ハ新法ニ照シテ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ三  
十日ノ一月ナルカ故此日數ヨリ上ラシメズ旧法ノ禁獄三十日ニ處スル  
ヲ云フ也

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者其ノ短期ノ短キ者ニ  
從フ但シ其長期ノ短キ者ニ過ルヲ得ス

○本條ニ云フ如ク旧法新法共ニ其期ノ不同アリテ齊シカラザル所以ハ  
旧法ニ於テハ竊盜五十円以上八十圓以下ハ其刑懲役一年以上三年以下  
トス之ヲ新法ニ比較セバ第三百六十條ニ曰フ人ノ所有物ヲ竊取シタ  
ル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ其金額ヲ論セス即チ旧法ハ短  
期一年ニシテ新法ハ二月ナリ其長期ハ旧法三年ニシテ新法四年ナリ依テ  
此ノ通りナル場合ニテハ短期ノ短キハ新法ノ二月ナルヲ以テコレニ從  
ヒ長期ノ短キ者ハ二月ヨリ過減スル事ヲ得ザルナリ

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定  
役アル時ハ舊法ニ從フ

○明治十五年一月ヨリ實施ノ新法ニテハ二月以上ノ刑ニメ旧法ニ於テ  
モ亦二月以上ノ刑ナリ其短期ヲ問ハミ同シケレト旧法ニテハ服役セシ  
メザル禁獄ニテ新法ハ即チ服役スル重禁錮ナル時ハ旧法服役ナキ者ニ  
從ヒ刑律ヲ科ス是レ刑ノ同シケレハ輕キニ從フノ所以ナリ



第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

○金ヲ出メ罪ニ代ユル者即チ贖罪ニシテ事情止ムヲ得ズ懺察スベキ時ニ科スルノ刑法也蓋シ收贖トハ老人及ヒ幼少廢疾者ノ犯罪ヲ犯ス罪ナリ又金額ヲ以テ罪ニ代スル者ハ旧刑法ニテ金二十五錢ヨリ百円ニ至ル且罰金ハ讒謗律ニテハ金三円以上十円迄ノ金額ナリ又違式註違ノ科料等若シ新刑法輕罪ノ罰金違警罪ノ科料金額内ニ在ル時ハ新法ノ金數最下額旧法ヨリ少數ナレバ新法ニ照シ罪ヲ定ム又金額多數ナル時ト虽ドモ極度ノ額ヲ旧法ノ上ニ登ストコトヲ許サスコレ本條ノ首意ナリ

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其ノ多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

○第三條ト同意ニシテ新法旧法ヲ對照シテ之ヲ見ルニ罰金科料ト不同ノ時ニハ其少數ノ又小ナル者ヲ以テ罰ス然リト虽トモ過減シテ多數ノ

少ナル金額ニ出ルヲ許サズ

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ誅ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

○舊法ニ於テハ附加刑ト云フモノナシ蓋ダシ其ノ身體ニテ其刑ヲ受クモノハ新刑法ヲ以テ之ヲ照ラシ其ノ附加罰金アルニ於テハ之レヲ去リ科セズ故ニ新法旧法トヲ對照シテ輕キニ從ガフ可シ

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ誅ル者新法ニ於テ罰金科料ニ誅ル時ハ新法ニ從フ

○假令ヘバ舊法ニテハ佛像ヲ破毀スルモ不應爲重タリシモ新刑法ニハ二円以上二十円以下ノ罰金タリトアリ即チ懲役實決ト罰金科料トハ比較シテ罰金科料ノ輕キハ勿論ナレモ此様ナル場合ニテハ皆テ新法ニ從フコト本條ノ所謂ナリ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

○前條ノ反對ニシテ舊法ハ納金ニテ刑法ヲ免除ナリシモ新法實決ノ場合ニテハ輕キ者ハ其舊法ニ從フナリ舊法ニテハ官吏ノ公罪ハ贖フニ足ルト雖ドモ新刑法ニテハ官吏濫職ノ刑法ニ問ハルハガ如キヲ謂フ是レナリ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖凡仍ホ一日ニ計算ス

○舊法ノ所謂刑人ノ納金入可キモ資力乏シク納金ノ延刑ヲ乞ヒテ其期限内金額ヲ未ダ納ムル能ハザル時ニ於テハ金一円ヲ以テ一日ト見積リ輕禁錮或ハ拘留ニ代フルナリ且一圓ニ滿タザル者ト云フモ猶ホ一日ト見做ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

○新刑法ニテ重罪ハ何レモ附加刑ナル者アリサレド舊法ノ懲役ニ當ル者ヲ比ベ以テ重罪ニ處ス其時ニ於テハ附加刑ヲ科セズシテ只々本刑ヲノミ用ユルナリ且ツ又華士族ノ除族セラレ或ハ有位者ノ位記即チ勳等ヲ取り上ゲラレタルト金額沒收トハ舊法ニ從フナリ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

○身体上ニテハ舊法ナレバ實決ノ刑ヲ受ルモハハ之ヲ新刑法ニ比シ照シ輕罪ノ刑ニテ監視ノ附加刑アル時ニテハ則チ監視ハ免除ス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

○新刑法ニテ華族士族ノ犯罪ガ輕キ時ニテハ之ヲ比較シ舊法ニ除族ヲナス者タル凡之ヲ除カシメズ

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

○本刑ヨリ幾等乎ノ差異ヲ爲ス者アリ即チ新法舊法共ニ加重輕減ノ法則コレナリ今試ニ其ノ比照ヲセンニハ各々其ノ本法ニ於テ加減シタル者ヲ以テ更ニ本刑ト爲シ程度ヲ立ツルナリ

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ誅ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

○此迄ハ若シ懲役人ノ逃ゲ走ル者アラバ之ヲ棒鎖ニ處セシナルガ新刑法ニ於テハ此刑ヲ廢シテ囚徒逃走ノ刑ニ處スト雖ドモ舊罪ノ犯人ニ付テハ猶ホ今棒鎖ヲ行フ

刑法追告終

明治十五年四月七日 出版御届  
全 年四月 刺成発兌

定價金三拾錢

京都府平民

註解者

片岡義助

上京区第二十五組布袋屋町五百十二番地

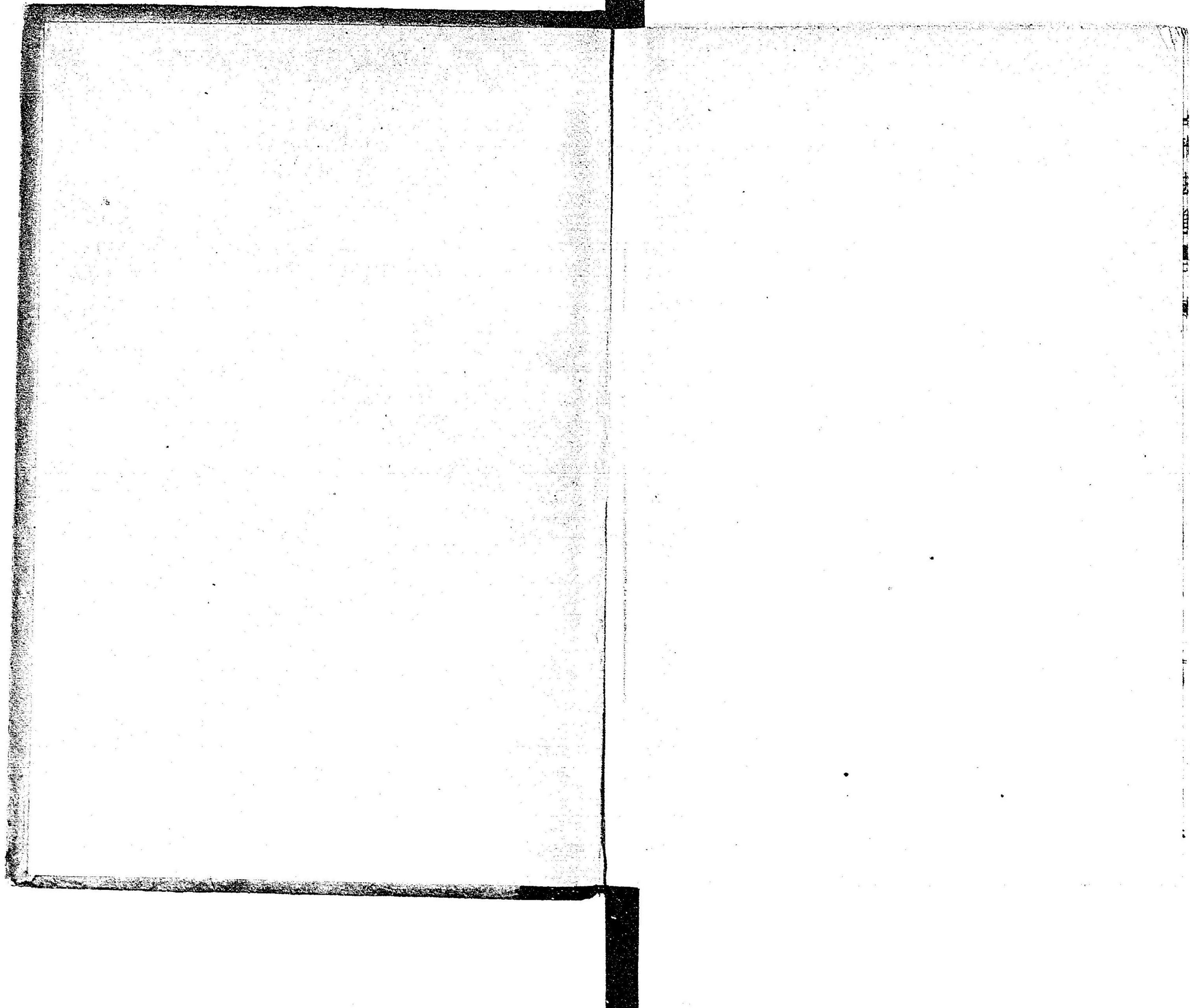
同 平民

出版人

竹岡文祐

上京区第三十組天性寺前町五百卅一番地



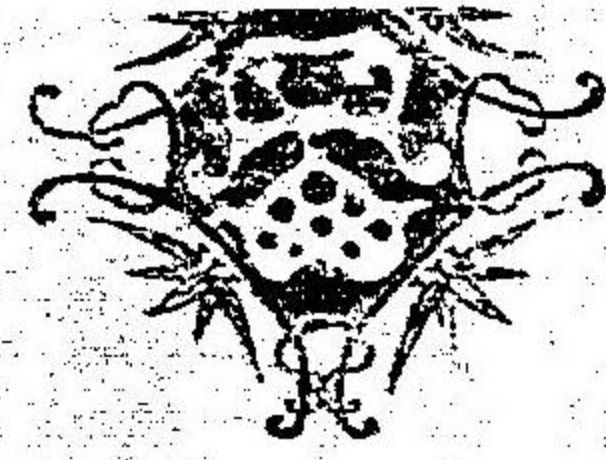


東 京 圖 書 館

新 門 函

一 部 三 架

類 號



035  
4  
139

片岡義助註解

刑法附則註解

全

京都

竹岡書房藏

035941-000-8

特14-182

刑法附則註解 (龍頭)

片岡 義助 / 著

M15

BBP-0539



特  
1